



県央かわら版

第126号

令和5年6月20日発行

発行所

一般社団法人県央研究所

インフル季節外れの流行 コロナ禍で免疫低下

インフルエンザが季節外れに流行しています。先週、1週間に、全国約5000か所の定点医療機関から報告された患者数は7975人で、1医療機関あたり1・62人。流行の目安（1人）を年末に超えてから、5月下旬まで続くのは10年ぶり。専門家は「コロナ禍に入った2020年以降の2シーズンは流行がなく、免疫が低下したことが原因」としています。

厚生労働省が公表したインフルエンザの定点報告を都道府県別にみると、宮崎の1医療機関あたり7・07人が最多で、長崎の同4・14人、愛媛の同3・67人、新潟の同3・35人が続いています。

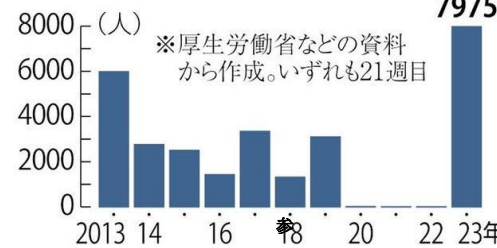
この1週間に休校や学年・学級閉鎖をした小中高校や幼稚園などは、全国で325か所。13年も5月下旬まで流行が続いたものの、その年の同時期（157か所）の2倍を超える多さとなっています。

今年5月は1000人を超える大規模な集団感染も相次ぎました。大分市と宮崎市の高校では、それぞれ500人近く感染。体育祭で広がつた可能性も指摘されています。東京都調布市の小学校でも1000人を超えました。



参考・引用…読売新聞

5月下旬のインフルエンザ患者数 (定点報告)



※厚生労働省などの資料から作成。いずれも21週目

腸管出血性大腸菌 感染者4人確認 新潟市

新潟市保健所管内で、腸管出血性大腸菌の感染者が相次いで4人確認されました。

腸管出血性大腸菌への感染が確認されたのは、10歳未満の女児1人と60代女性3人。腹痛や下痢の症状を訴えて医療機関を受診し、検査で感染が判明したケースのほか、同居の家族が感染し、検査したところ感染が判明した事例や、職場の定期健診で検査したところ見つかったケースもあったということです。症状を訴えていた患者は全員、回復傾向といふことですが、現時点では感染源は分かっています。

新潟市によりますと、腸管出血性大腸菌への感染は、菌に汚染された食べ物や便を介して感染するもので、下痢や腹痛、発熱などの症状が現れ、重い場合は命にかかわることがあります。

腸管出血性大腸菌は、75℃・1分以上の加熱で死滅するとされていて、食品を中心まで十分加熱することが有効なほか、食材は流水で十分に洗う、食品ごとに調理器具を分ける、手洗いをこまめにするなどの対策をとってほしいと、新潟市では呼び掛けています。

参考・引用…読売新聞



災害時に役立つ！ 防災備蓄用自販機



災害時に、中に備蓄している飲み物や食べ物無料で被災者に提供する「衛生用品防災備蓄自販機」が兵庫県赤穂市内の指定避難所の赤穂すこやかセンターと中央公民館の2カ所に設置されています。



清涼飲料水など飲み物が約300本、栄養補助食品など非常食約150個が入っており、震度5以上の地震が発生したり、大雨警報が出たりして避難指示が発令された際に施錠を解き、避難者に無料で提供できるということです。

参考・引用…毎日新聞



この取り組みは、市とアイリス製菓が結んだ包括連携協定に基づくもので、台風や南海トラフ地震などを想定し、地域防災力の強化を図ることを目的としています。

参考・引用…毎日新聞

PICK UP NEWS

アルコール分5%配合 「お酒のクーリッシュ」発売！

ロッテは、「飲むアイス」の「クーリッシュ」ブランドから、アルコール分5%の本格的なお酒『クーリッシュ フローズン レモンサワー』『クーリッシュ フローズン グレフルサワー』のテスト販売を開始しました。

昨年夏に初めてテスト販売を実施し、好評で、今夏は販売箇所を拡大。昨年、コンビニでの販売は沖縄のみでしたが、今年は九州全域（の一部コンビニエンスストア）に拡大。さらに、長崎県のハウステンボス内の売店等に販売します。また、今年も継続して EC サイト、ZOZO マリンスタジアム、ROCK IN JAPAN FESTIVAL 2023 等でも販売するということです。

参考・引用：ロッテHP



甘酒に初の微炭酸入り「冷やし甘酒スパークリング」発売

森永製菓は、「冷やし甘酒」に微炭酸を加えた「冷やし甘酒スパークリング」を期間限定で発売しました。すっきりとした「冷やし甘酒」の味わいはそのままに、微炭酸をきかせることで爽快感をプラス。

同商品は購入者の6割を50～70代が占めていて、微炭酸を加えることで30～40代の女性をターゲットに商品開発を行ったそうです。

また、本商品は夏にぴったりの飲み物として「熱中症予防声かけプロジェクト」に賛同しています。

内容量は190mL（アルコール分1%未満）。なくなり次第販売終了となります。

参考・引用：PRTIMES



皆様からの情報・ご意見をお待ちしております
県央かわら版では、食品・環境等を中心に情報を発信しております。取り上げていただきたいものや、旬な話題等がございましたら、お気軽にご連絡ください。
一般社団法人県央研究所 県央かわら版事務局
電話 0256(46)8311
FAX 0256(46)8310
Eメール info@kenoh-labo.jp